

筑波大学URA研究戦略推進室の閲覧サービスに収録していた複数の評価書の記載事項の観点を抜粋し、箇条書きに記載しています。ご自身の責任でご活用ください。

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書

評価書作成者	氏名	
	所属機関名	
	部局名	
	職名	
申請者との関係		
<p>申請者の(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に入力してください。</p> <p>※特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合には、記載してください。</p> <p>※入力にあたっては、アンコンシャス・バイアスをできるだけ排除するようにしてください。</p>		
<p>(1) 研究者としての強み</p> <p>1. これまでの研究実施上における申請者の役割</p> <p>① 目的（目指すもの）→実践・実績→課題・改善策→成果（社会的な貢献度や効果） →さらなる目標・計画</p> <p>② 課題解決・改善策のために必要な研究であること</p> <p>2. 1.で掲げている成果や効果に向けての申請者の具体的な取り組みや行動評価 記載例：着想力、想像力、専門知識、人間性 申請者の研究への取り組み姿勢 記載例：（休日、昼夜を問わず取り組む姿勢等、知識欲が旺盛、研究論文読破数等）</p> <p>3. 将来性のある研究人材であること</p> <p>① 申請者の能力、人間性等 記載例：（研究テーマの立案が申請者本人、課題探索能力、知的探求心、仮説提唱能力、強い意志と行動力、遂行能力、忍耐力、前向き等、）</p> <p>② 申請者の研究テーマが分野での重要テーマであり、 将来この学術分野を担う人材に成長することの確信</p>		
<p>(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素</p> <p>1. 上記（1）研究者としての強み上の具体的な取り組みや行動評価で「強み」と示せなかった部分の発展要素と計画</p> <p>2. 「強み」と示した部分のさらなる発展要素と計画</p>		

申請者を受け入れるに当たっての「受入（指導）計画」、受入研究者自身又は研究室で行っている研究と申請者の研究との関連性、期待される相乗効果について。

（申請者の研究の発展性だけでなく、申請者を受け入れることにより期待される、受入研究者（研究室）の研究に対する影響、波及効果についても明記。）

見本